家保における病性鑑定実施状況(令和4年度上半期)

令和４年度上半期（R4.4.1～R4.9.20）に当所で実施した病性鑑定件数は305件で、畜種別内訳では、牛が230件、イノシシが49件、鶏が21件でした（表１）。

表１．令和４年度上半期病性鑑定実施件数

畜種	解剖	検査	合計
牛	47	183	230
イノシシ	0	49	49
鶏	3	18	21
羊・山羊	1	2	3
蜜蜂	2	0	2
合計	53	252	305

牛の検査のうち最も多いのが、牛伝染性リンパ腫で、次いで牛ウイルス性下痢でした（表２）。いずれも、ヨーネ病検査時の血液を用いた浸潤状況検査と導入や農場内の移動時等の清浄化対策を目的とした検査が多くを占めています。

牛の解剖を伴う病性鑑定結果では約４割を消化器病が占めており、昨年度と同様に牛クロストリジウム感染症と鼓脹症が多い結果となりました（図）。

これらは、10カ月齢前後と24カ月齢前後の肥育牛が、ほとんどでした。これらの病気の発生には、粗飼料の食い込みやビタミンＡコントロールが関連していると言われています。今一度、飼料給与方法の見直しをしてください。また、急死という経過が多く、経済的損失が大きいため、定時的な個体観察の徹底についてもよろしくお願いします。（三溝）

図．牛の解剖を伴う病性鑑定結果

※数字は件数

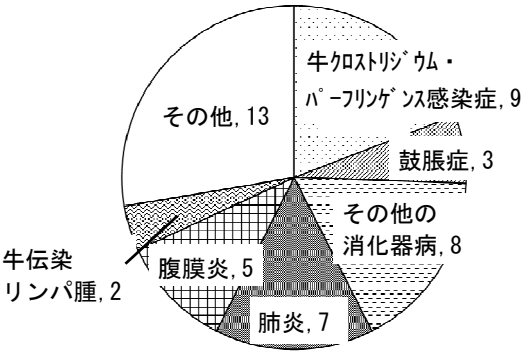
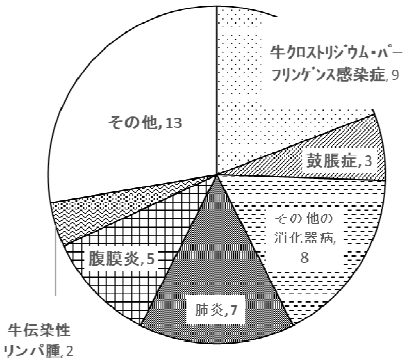


表２．牛の病名・目的別検査頭数

病名	浸潤状況	清浄化対策	預託・売却	診断	発生予察	合計
牛伝染性リンパ腫	1,871	695	85	5	0	2,656
牛ウイルス性下痢	1,896	331	78	13	0	2,318
アルボウイルス調査	0	0	0	1	149	150
ヨーネ病	15	26	40	2	0	83
細菌性下痢	0	0	0	7	0	7
乳房炎	0	28	0	0	0	28
ネオスポラ症	0	0	0	2	0	2
合計	3,782	1,080	203	30	149	5,244


牛ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ・ﾊﾟｰﾌﾘﾝｹﾞﾝｽ感染症, 9
鼓脹症, 3
その他の消化器病, 8
肺炎, 7
腹膜炎, 5
牛伝染性リンパ腫, 2
その他, 13